

自治会活動  
活性化の輪を  
広げよう！

**魅力ある  
自治会づくり  
支援事業補助金  
活用事例集**

**令和3年度**

みんなでまちづくり課  
宇都宮市自治会連合会

## この事例集について

この事例集は、「令和3年度 魅力ある自治会づくり支援事業補助金」を活用し、自治会自らが創意工夫のもと取り組んだ事例をとりまとめたものです。これから取組を始めようとする自治会へのモデルとしていただけるよう、活動分野別に事例をご紹介します。

※「令和3年度 魅力ある自治会づくり支援事業補助金」の概要は以下のとおりです。

## 令和3年度 魅力ある自治会づくり支援事業補助金

### 1 目的

近年の急速な少子・超高齢化、人口減少などの社会構造の変化や価値観の多様化などにより、地域コミュニティ維持への危機感が高まりを見せる中、自治会が、将来に渡って、住民に最も身近な存在として、安全で安心なまちづくりを担う役割を果たしていけるよう、自治会自らが多様な主体との連携により取り組む「魅力ある自治会づくり」活動を支援することを目的とする。

### 2 補助金概要

#### (1) 補助交付先

宇都宮市自治会連合会

#### (2) 事業実施主体

地区連合自治会（単位自治会、NPO、企業等との連携により実施）

#### (3) 対象となる事業

地域主体の魅力ある自治会づくりに資する取組で継続性のあるものを対象とする。

- ・ 集合住宅への加入促進
- ・ ICTを活用した情報発信の強化
- ・ 地域防災力の向上
- ・ 共助による福祉力の向上 など

#### (4) 補助対象数及び補助限度額

補助対象数：10地区連合自治会

補助限度額：1地区あたり250千円（市200千円、宇自連50千円）

#### (5) 補助対象経費

経費（例）	対象とする経費（例）
報酬費	講師等謝金など
消耗品費	事務用品、コピー用紙などの消耗品など
印刷製本費	チラシ・パンフレット印刷、会議資料印刷など
通信運搬費	郵便料金など
賃借料	講演会、イベント等の開催会場の使用料や機器等の借上費など
備品購入費	事業に必要な事務用品、資器材の購入費など（10万円未満） ※継続的な活動につなげる備品の購入は可

# 目次

## <集合住宅への加入促進>

- 自治会加入促進事業  
（河内地区：河内地区連合自治会・岡本駅前二区自治会）  
・・・ 2
- 自治会加入促進事業  
（細谷・上戸祭：細谷・上戸祭地区自治会連合会）  
・・・ 5

## <ICTを活用した情報発信の強化>

- 地域ICTプラットフォームの活用による自治会加入促進事業  
（清原地区：清原地区自治会連合会）  
・・・ 9
- “自治会をもっと身近に”プロジェクト  
（上河内地区：上河内地区連合自治会）  
・・・ 11
- 陽光地区連合自治会ホームページの開設  
（陽光地区：陽光地区連合自治会）  
・・・ 17

## <地域防災力の向上>

- 防災に強い自治会づくり事業  
（平石地区：平石地区自治会連合会）  
・・・ 20
- 防災を通じた地域コミュニティ向上事業  
（瑞穂野地区：瑞穂野地区連合自治会）  
・・・ 22
- 防災を通じた地域コミュニティ向上事業  
（河内地区：河内地区連合自治会）  
・・・ 26
- 防災かまどベンチの設置による「頼りになる自治会」活動の理會促進  
（宝木地区：宝木自治会連合会・宝木細谷自治会）  
・・・ 28

## <共助による福祉力の向上>

- 健康寿命を高める自治会づくり事業  
（平石地区：平石地区自治会連合会）  
・・・ 20
- にしはら支え隊  
（西原地区：西原地区連合自治会）  
・・・ 31

**集合住宅への  
加入促進**

## 河内地区（河内地区連合自治会・岡本駅前二区自治会）

### 自治会加入促進事業

#### 事業期間・内容

- 1 事業期間：令和3年6月28日～令和4年2月1日
- 2 事業内容
  - (1) 事業活動推進会議の開催（自治会役員及び河内地区連合自治会役員で構成）
  - (2) 自治会だよりの発行，自治会活動紹介チラシ・自治会加入促進チラシ・同クリアファイルの作成・配布による広報啓発活動の実施
  - (3) 啓発物品（広報用ポケットティッシュ）の作成配布による広報活動
  - (4) のぼり旗設置（自治会内10か所）による自治会加入促進の広報啓発活動
  - (5) 賃貸住宅入居者へ加入促進広報啓発用のチラシ・物品のポスティング実施
  - (6) 賃貸住宅管理会社へ加入促進協力を依頼
  - (7) 戸建て住宅入居者への自治会加入経緯について聞き取り調査及び分析を実施
  - (8) 全世帯（非会員含む）対象の防災訓練実施による会員連携強化・新会員加入促進
  - (9) 自治会活性化及び会員加入率向上に向けた学習会（「自治会楽習会」※）への参加  
※宇都宮市内の現・元自治会長，副会長，NPO 法人代表で構成する学習会

#### 実施にあたり工夫した点

- 1 賃貸住宅管理会社へ加入促進の協力を依頼
  - ・ 自治会長が直接管理会社を訪問し，活動内容を説明の上，協力を依頼した。
- 2 戸建て住宅入居者への自治会加入経緯について聞き取り調査実施
  - ・ 新規加入世帯に対して，加入経緯の聞き取り調査を実施し，分析した。
- 3 防災訓練の実施による会員連携強化
  - ・ 初めて全世帯対象の防災訓練（安否確認，被害状況の把握，情報伝達訓練等）を実施し，会員の連携強化及び新会員加入促進に努めた。

#### 事業による成果・課題

- ・ 令和4年1月31日までの間に，新規自治会加入者が16名増加した。（うち11月3日実施のポスティング実施後に4世帯加入）
- ・ 自治会員の加入促進への意識向上と，自治会活動を知らない若い世帯が自治会活動を理解した上で加入した経緯などが判明した。
- ・ 賃貸住宅入居者の加入はなかったが，周知活動を通して自治会の役割・重要性についての理解と，将来的に戸建て住宅に移行した際には加入いただける感触が得られた。

#### 今後の取組

- ・ 住民自治の根幹を担う自治会の加入率向上に向け，会員・役員の担い手確保が急務
- ・ 賃貸分譲住宅が増加する一方，これら世帯の加入率が低いため加入を働きかける。

岡本駅前二区自治会

のぼり旗による加入促進（岡本駅前駐輪場）



のぼり旗による加入促進（たいらや岡本店）



のぼり旗による加入促進（とりせん岡本店）



のぼり旗による加入促進（JR岡駅東西通路）



賃貸住宅へポスティングでの加入促進活動



自治会での加入促進事業についての会議



自治会紹介チラシを作成し周知啓発



自治会だよりを作成し周知啓発



広報用チラシを作成し周知啓発



自治会広報資料に宇都宮市ロゴマーク活用



自治会チラシの掲示（たいらや岡本店）



啓発用ポケットティッシュを作成



防災訓練（公民館に対策本部設置）



防災訓練（安否確認や被災状況の受付）



防災訓練（安否状況等を一覧表に掲示）



防災訓練（訓練への参加者）



## 自治会の加入促進事業

### 事業内容

- 1 宅地造成などによる「新築物件」を対象にした加入促進
  - ・不動産業者との情報交換の実施
  - ・加入促進ツール（パンフレット、申込書等）の作成、配付
- 2 転入者等を対象とした加入促進
  - ・各自治会や班長への加入促進活動に対するフォローアップ体制の確立

### 実施にあたり工夫した点

- ・自治会加入促進委員会による加入促進活動のフォローアップ  
自治会加入促進委員会を立ち上げ、各自治会による活動の確認と問題点などを共有することで、地区一丸となって対応することができた。
- ・パンフレット作成のための情報収集  
宇自連事務局の方々との連携により、幅広く事例等を収集することで、わかりやすいマップを作ることができた。
- ・不動産業者との協働による自治会加入についての情報発信  
自治会の事業内容や、加入のメリットを伝達することで、分譲受付開始時から不動産業者から自治会費などの情報を発信してもらうことができた。

### 事業による成果・課題

- ・自治会マップチラシ（パンフレット）、申込書等資料一式の作成・配付により新規加入の促進をより簡単に進めることができた。
- ・不動産業者との情報交換により、業者にも自治会加入のメリットを知ってもらい、協働による自治会加入促進活動に取り組むことができた。
- ・加入世帯は令和3年4月時点より 44件増加（令和4年2月末現在）  
（内訳 新規加入・転入62件 退会・転出18件）

### 今後の取組

- ・新築物件の加入促進事業を継続する。
- ・不動産業者との情報交換など協力体制を維持する。
- ・未加入世帯に対し、「魅力ある自治会」をアピールするため、地区として自治会加入のメリット等を洗い出す。
- ・今後の事業展開について、専門家等からのアドバイスを受ける。



# 自治会加入促進事業

## 対応①

(工夫した点)「見やすい!わかりやすい!」パンフレットの作成  
 「自治会加入のご案内」「加入申込書」等を作成し、自治会エリア、自治会長の顔写真、自治会加入のメリットなどを掲載して、未加入者にわかりやすく説明できるようにしました。

新規転入されたお宅へ自治会加入のご案内パンフレットが役立ちました。  
 (上戸祭2丁目自治会)



お隣にも続けて加入していただけるよう丁寧に説明しました。



対応②

(工夫した点) **進め方, 成果の「見える化」と情報共有**

事業を進めるにあたって、連合自治会に「自治会加入促進委員会」を設置し、スケジュール表や加入件数の増減がわかる推移表などを作成し共有することで、活動が円滑に行われました。



役員会では、「細谷・上戸祭地区ならではの魅力」について議論しました。



令和3年度

細谷・上戸祭地区 各自治会加入促進推移表

令和4年2月28日現在

年 区	自治会名	加入件数 累計	9月までの 加入件数			10月迄		11月迄		12月迄		1月迄		合計		合計		
			加入件数	加入件数	加入件数	加入件数	加入件数	加入件数	加入件数	加入件数	加入件数	加入件数	加入件数	加入件数	加入件数	加入件数	加入件数	
1	細谷町	828	10			1	3								1	13	640	
2	細谷町	168	0					5		2					0	7	175	
3	上戸祭1丁目	210	3	1	3					2		1			1	9	218	
4	上戸祭2丁目	291	0			1		1							0	2	293	
5	上戸祭3丁目	129	0												0	0	129	
6	上戸祭4丁目	323	1	2	3	2	3					2			4	9	328	
7	上戸祭本町	320	1			1									0	2	322	
8	上戸祭町	372	5			2									0	7	379	
9	若草3丁目	425	0	5	3										5	3	423	
10	若草4丁目	425	0	1	1					1		1			1	3	427	
11	若草5丁目	210	2	0											0	2	212	
12	戸部 カニビル	305	0							1	1					4	1	302
13	戸部 第27ビル	287	1			1		1							0	3	290	
14	戸部 第37ビル	185	1					2							2	1	184	
15	玉野	71	0												0	0	71	
	合計	4,543	24	12	15	5	13	6	6	1	4	0	0	18	62	4,587		

\* 4605

※ 細谷・上戸祭自治会、2月～3月間に約40軒の自治会加入を計画されている。  
 ※ 各自治会より加入申込書が加入申請書類を、事務局より返送の状況と共有関係で仕入への連絡が行われる。  
 ※ 自治会役員(会長)が職員と情報交換を例に行い、加入促進を継続的に行うことへの期待が大きい。

委員会では、加入の推移表を作成し、情報を共有しました。

**ICTを活用した  
情報発信の強化**

## 清原地区（清原地区自治会連合会）

### 地域ICTプラットフォームの活用による自治会加入促進事業

#### 事業内容

【目的】自治会運営における「回覧板」や「班長会議」などの事務連絡をICT化することにより、役員の負担を軽減するとともに、活動の「見える化」により自治会に対する地域住民のイメージアップを図り、自治会への加入促進を推進するもの

#### 【取組内容】

令和3年6月	地域ICTプラットフォーム「結ネット」説明会
7月	「結ネット」導入検討ワーキンググループの発足
8月	第1回「結ネット」ワーキンググループ（書面開催）
9月	「清原地区デモ自治会」の開設・運用
10月	第2回「結ネット」ワーキンググループ
12月	「結ネット」試験導入参加自治会の選出
1月～	「結ネット」試験導入に向けた説明会，機能の検討開始
3月	「結ネット」試験運用開始

#### 実施にあたり工夫した点

#### 【検討体制の構築】

・「結ネット」の導入に向けて、システムの利便性を理解し主体的に考えてもらえるよう、各自治会からの推薦によりワーキンググループを立ち上げ、そこで検討した結果を自治会連合会に報告するとともに、重要事項の決定は自治会連合会において行う体制を整えた。

#### 【「使って慣れる」環境の整備】

・ワーキンググループのメンバーが「結ネット」の機能や利便性について理解を深められるよう、「清原地区デモ自治会」を開設し、会議の開催通知や出欠確認、会議資料の共有や情報発信などに取り組み、実際の使用感を踏まえながら導入イメージを膨らませるとともに、運用における課題について整理した。

#### 事業による成果・課題

- ・ 清原台2丁目における試験導入の開始（令和4年3月～）
- ・ 清原地区自治会連合会における試験導入に向けた機能の決定（令和4年3月～）
- ・ 清原台4丁目における試験導入に向けたデモ操作の開始（令和4年2月～）

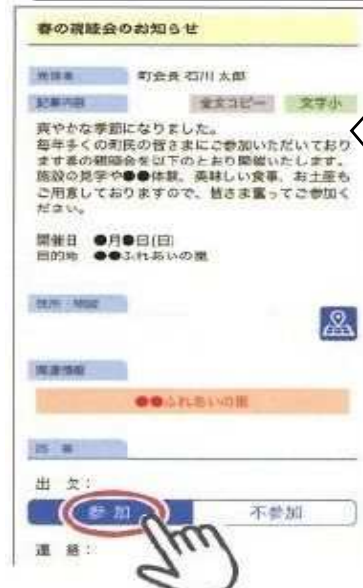
#### 今後の取組

・他の自治会においても導入に向けた検討が進むよう、清原台2丁目の取組状況を先進事例にしながら、地域住民に対する「結ネット」の利便性の周知や、運営に携わる人材の育成に取り組んでいく。

## 活動の様子



WGメンバーは「清原地区デモ自治会」を活用し「結ネット」の基本的な使い方を習得するとともに、会議開催の案内や出欠確認、会議資料や議事録の共有を図った。



会議の開催案内の送付も「結ネット」で行い、出欠状況も回答機能や集計機能で簡単に把握できる。



「若い人にも自治会役員を担ってもらうには、結ネットが必要！」と、自治会長も真剣に説明を聞いています。

「結ネット」のインストールや操作については、センター職員が支援

## 上河内地区（上河内地区連合自治会）

### “自治会をもっと身近に” プロジェクト① 初めてのSNS講座 ～ツイッターとかLINEって何？～

#### 事業内容

様々な情報が飛び交う現代社会において、情報発信や収集の主要なツールとなっているSNS（Twitter・LINE）の基本を学ぶほか、まちづくり協議会のTwitter及び連合自治会LINE公式アカウントをフォローして情報を収集し、生活に役立つ情報を集める力を身に着ける。

【開催日時】 令和3年11月29日（月）、12月6日（月）、12月13日（月）  
午後1時30分から午後3時まで

【開催場所】 上河内地区市民センター 1階ホール

【参加人数】 13人

※上河内地区連合自治会・上河内生涯学習センター連携講座

#### 実施にあたり工夫した点

- ・ スマホ初心者を対象とすることから、メイン講師のほかサブ講師を複数名配置し、受講者の操作補助を行う等、きめ細やかな指導を行った。
- ・ スマートフォンがない方には、講座用スマホを準備し、受講の機会を拡げた。
- ・ 講座の中で実際に地区団体の開設したSNSを登録することで、地域情報を得る機会につなげた。

#### 事業による成果・課題

- ・ 受講者は全員、地区LINE・Twitterを登録し、地域からの情報をSNSから収集できるレベルまで向上した。
- ・ 講座等を通じ、地域の各団体がSNSの活用に興味を示し、団体内の連絡網にLINEの活用を検討するなど、率先してSNSを学び活用しようとする動きが見られた。

## 今後の取組

- 高齢者がスマホへの苦手意識を払拭し、気軽に受講できるよう、地域の若者を講座ボランティアとして起用するなど検討する。
- 講座をきっかけとして、スマートフォンや SNS への関心を高め、さらに各自治会が、地元の公民館等の身近な場所で講座を開催していくよう、機運を高める。
- 地域団体が率先して SNS を活用していくよう、役員等を対象とした講座の実施も検討する。

## 講座の実施

ねらい

SNS を活用し、スマートフォン初心者の情報収集能力を高める

### 講座の実施

(工夫した点)

- ① 各受講者がすぐに相談できるよう、メイン講師のほかにサブ講師も複数名配置した。
- ② 次回の講座に興味を持てるよう、講座の最後に簡単な課題を用意した。



## “自治会をもっと身近に” プロジェクト②

### ～地域 SNS の活用～

#### 事業内容

連合自治会公式LINEや、まちづくり協議会 Twitter など、地域団体の SNS を活用し、地域の各種情報や市の情報等を発信する。

#### 実施にあたり工夫した点

- 地域の防災、防犯等の情報や、イベント周知等、地域の様々な情報を発信
- 地域の特産品のゆずのPRや、地域の伝統文化等についても発信
- 地域イベントに密着し、リアルタイムで情報を発信
- 新型コロナワクチン接種に関する情報等、市が幅広く提供したい情報についても、地域 SNS を使って発信

#### 事業による成果・課題

- 「梵天まつり展」での梵天作りの様子など、普段地域住民でも見ることができない内容をリアルタイムで地区内外に発信し、事業や地域のPRにつながられた。
- 地域内の防犯、交通安全など、早急に提供したい情報を、SNSを使い発信することができた。

#### 今後の取組

- まちづくり協議会役員や区内自治会長が、SNS経由で情報発信・受信ができるよう、地域団体役員等を対象とした講座の実施も検討する。
- 地域住民の地域 SNS 登録者数を増加させるため、魅力的な情報発信を行う。
- 災害や避難所開設時において、きめ細やかな地域情報を迅速に発信できるよう、区内防災活動においても、情報発信訓練を行う。



## LINE の開設

ねらい

手軽で速報性のある LINE で情報提供を行う

### アカウント開設

(工夫した点)

- ① 将来的に地域の各団体が LINE アカウントを持てるよう、ビジネスアカウントで作成した。
- ② 各地域団体がアカウントを開設する際に補助できるよう、まち協事務員が継続してアカウントの管理を行う。



## SNS を利用した広報

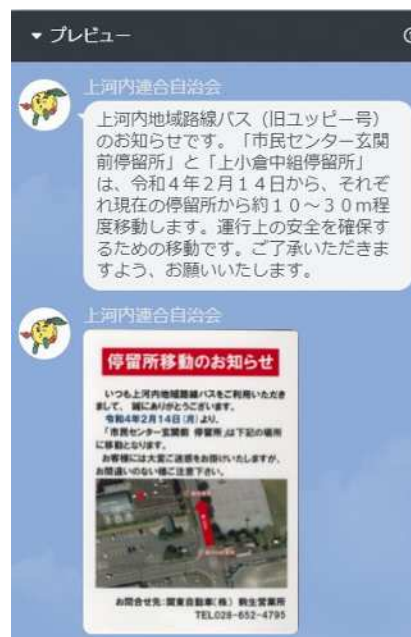
ねらい

地区 SNS アカウントを活用した幅広い広報

### 情報提供

(工夫した点)

- ① 各種イベント等の情報をリアルタイムで発信
- ② 地域の防犯、防災の情報を幅広く提供



## “自治会をもっと身近に” プロジェクト③

### ～地域情報コーナーの設置～

#### 事業内容

地域拠点である地区市民センター内に地域情報・自治会情報コーナーを設置し、幅広い世代に情報を発信し、自治会を身近に感じてもらうとともに、郷土愛の醸成を図る。

#### 実施にあたり工夫した点

- ・ 掲示物だけでなく、デジタルサイネージを導入・活用し、映像や音楽を用いて、成人式をはじめとした地域情報の提供を行った。
- ・ 展示の際は、地域の小学校・中学校にも掲示物の作成を依頼するなど、地域全体で参加することで、普段センターを利用しない方にも興味を持ってもらえる工夫を行った。

#### 事業による成果・課題

- ・ 地区を代表する祭事「梵天まつり」が、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止になったことから、伝統文化・技能の継承の場として当コーナーを活用し、「梵天まつり展」を行った。
- ・ 地域の特産品である「ゆず」およびゆずを活用した「ゆず染め」を幅広くPRするため、当コーナーを活用し、「ゆず染め展示」を行った。

#### 今後の取組

- ・ 自治会や地域活動団体を身近に感じ、加入促進・参加促進につながるよう、魅力ある情報や暮らしに有用な情報を、今後も継続して発信していく。
- ・ 地域団体からの情報提供を増やすため、自治会長会議やまちづくり協議会全体会等で事業説明を再度行い、事業のさらなる周知を図る。

## 梵天まつり展示

ねらい

地域情報コーナーを活用した伝統文化・技能の継承

展示

(工夫した点)

- ① デジタルサイネージ等の利用により、動画で梵天まつりを紹介
- ② 小学校・中学校の学びの成果として制作した資料を展示



## ゆず染め展示

ねらい

地域情報コーナーを活用した地域特産物等のPR

展示



(工夫した点)

- ① デジタルサイネージを活用し、ゆずのモイストポップリの作り方等をPRした。
- ② ゆず染めのPRや、キャッチコピーのアンケート募集等に地域情報コーナーを活用した。

## 陽光地区（陽光地区連合自治会）

# 陽光地区連合自治会ホームページの開設

### 事業内容

- ①活動日時：令和3年7月～令和4年3月
- ②活動場所：陽光地域コミュニティセンター
- ③参加人数：事務局4名，各自治会長7名，各自治会HP担当者7名，講師1名，計19名で勉強会を行い，開設に向け作業にあたった。
- ④活動内容（ホームページ掲載内容）
  - ・コミセン諸室の空室情報（HPからの予約は不可）
  - ・陽光地区の行事予定・まち協広報紙（直近の回覧を画像で見られる）
  - ・陽光地区ビジョンの紹介 ・直近の総会資料 ・お知らせ
  - ・フォトギャラリー（行事の写真など） ・単位自治会HPへのリンク

### 実施にあたり工夫した点

- ・ 連合自治会のHPから単位自治会HPへのリンクを可能とした。
- ・ LINEや無料会議アプリを活用
- ・ HP開設後も町内会の行事やお知らせについては，従来の回覧版との併用を継続
- ・ HP上でコミセン貸館の空室状況を確認できるようにした。

### 事業による成果・課題

- ・ コロナ禍の中でほとんどのイベントや会議が中止または延期となり，地域住民との交流が途絶えてしまったが，本事業を立ち上げることができ，役員や各種団体からは，時宜を得た事業にじっくりと取り組むことができてよかったと喜ばれた。今後，コロナ禍とは共存していかなければならないので，更なる事務事業の見直しやIT化を加速していかなければならないと感じた。
- ・ HPの作成は業者に依頼すれば早く開設することができるが，オール陽光で作成することで進めたので「俺たちが作った」との意識も強く，今後のHP更新に関する人材発掘にも繋がった。

### 今後の取組

- ・ 連合自治会及び単位自治会のHPを通して，これまで以上に陽光地区まちづくり推進協議会の事業や単位自治会の行事等の周知を図り，地域住民にタイムリーに有益な情報が提供できるよう更に工夫する。
- ・ 令和4年度から活動を開始する「陽光地区ささえあい会」生活支援サービス事業について，HPを活用し地域住民に広く周知の強化を図るとともに，住民同士のコミュニケーションを図りながら，これまでの見守り活動に加え，高齢者の生活支援を自治会で行えるよう準備を進めていく。

- また、各種のイベント開催を通じて、陽光地区の地域力を発揮し、未来に夢と希望の持てる地域づくりを更に進めます。
- HPの開設を機に、自治会活動の可視化を図り、自治会と住民のつながりを強めてまいります。また、若い世代にも情報が届くようにLINEを活用した加入促進に努めて参ります。

## ホームページ開設に伴う勉強会の様子

<第1回>



<第2回>



〇コロナ禍での事業立ち上げであったため、予定通りに勉強会等がおこなえず、日程調整に大変苦慮した取り組みとなったが、以下の感染防止対策を講じながら、みんなで力を合わせて、最後まで成し遂げ、ホームページを作成できたことに大きな喜びを感じている。

〇多くの地域住民、とりわけ若い世代の人たちに、利用してもらえることを期待している。

### 勉強会にあたって実施した感染対策

- 〇ウィルスの拡散を防止するため室内各所に消毒液を設置
- 〇参加者には検温の実施、連絡先の把握、参加人数制限、室内換気
- 〇接触確認アプリの利用など

**地域防災力  
の向上**

## 平石地区（平石地区自治会連合会）

### 『防災に強い自治会づくり事業』 『健康寿命を高める自治会づくり事業』

#### 事業内容

##### 『防災に強い自治会づくり事業』

「平石地区防災計画（1,000部）」・「災害運営マニュアル（300部）」の作成

- ・自治会や関係団体と防災に関する議論を深めながら、大雨・洪水時における平石地区の地域特性を踏まえた実行性の高い「平石地区防災計画」を作成する。
- ・日頃の備えや災害時の行動などを掲載した冊子を作成する。
- ・作成後は平石地区内の各世帯、各団体に冊子を配布し、防災に関する意識の啓発を行うと共に、年度当初に実施予定の地区防災訓練の企画に活かす。

##### 『健康寿命を高める地域ぐるみの取組の検討』

「いきいきライフひらいし vol.1,2(各 1,000部)」の作成

- ・高齢者やその家族、介護者などが利用できる各種サービスの紹介や手続きの方法などを案内した「高齢者サービスのしおり(宇都宮市)」を基に、テーマごとに4分割し、さらに読みやすいようイラスト等の多用や平石地区に特化した情報の集約など再編集を行ったものを自治会各戸配布（計4回）する。

#### 実施にあたり工夫した点

平石地区のリスクの特定と避難経路を設定するとともに視覚的に理解しやすい防災計画を作成するため、専門業者にアドバイスをもらいながら編集等を依頼した。

#### 事業による成果・課題

- ・「平石地区防災計画」と「いきいきライフひらいし」の冊子を作成し地域に防災・福祉に関する役立つ情報を発信することができた。
- ・「災害運営マニュアル」を作成することにより、平石地区自主防災会内で防災活動に対する認識や意識の共有化を図ることができた。

#### 今後の取組

災害運営マニュアルを踏まえた防災訓練を実施し、防災に強いまちづくり・自治会づくりを促進するとともに健康寿命を高めるため、地区内の多様な団体と連携し高齢者の健康づくりや生きがいづくりに繋がる具体的な取り組みを検討していく。

## 作成冊子

### 1 防災に強い自治会づくり事業



- 平石地区自主防災会  
災害対策本部運営マニュアル
- 平石地区防災計画  
表紙や内容などにもこだわり、  
手に取りやすいデザインを追求しました。
- 特に力をいれたのは、  
各自治会の危険箇所と  
避難所までのルートを  
掲載したことです。

### 2 健康寿命を高める自治会づくり事業



- いきいきライフひらいし  
高齢化が顕著な平石地区において、必要なサービスを必要な人が受けられていないという声を基に作成しました。



## 瑞穂野地区（瑞穂野地区連合自治会）

# 防災を通じた地域コミュニティ向上事業

### 事業内容

- 1 災害時における単位自治会エリアでの活動の仕組みづくり
  - ・ 策定した瑞穂野地区防災計画を、単位自治会役員・各種団体役員等を対象に説明会を開催し、災害時の対応の共通理解を図った。
- 2 防災のしおり「わが家の防災」の作成
  - ・ 地域住民の防災意識を啓発するための「しおり」を作成するため、連合自治会役員・自主防災会役員以外に福祉団体や女性団体の役員にも参加してもらい検討を行った。令和3年9月に完成し、配付にあたっては、単位自治会長に、各世帯に手渡しで配布してもらえるように依頼した。
  - ・ 「わが家の防災」1ページ目のハザードマップを拡大印刷（A2サイズ）したものを地区内の小中学校に配付し、防災を学ぶ資料として活用できるようにした。
- 3 防災訓練の拡充
  - ・ 風水害時に優先的に開設する避難所である瑞穂台小学校を見学し、避難所を開設する際の注意事項などを確認した。また、避難所での感染予防などを目的として購入した簡易テントを、実際に設置し意識の向上を図った。

### 実施にあたり工夫した点

- 1 防災のしおり「わが家の防災」の作成
  - ・ 作成するにあたり、子どもが見てもわかるように、イラストを多くするなどの工夫を行った。
  - ・ 「わが家の防災」を見ながら、ご自身の家庭ではどう行動するか、家族で話し合い、考えられる内容とした。
  - ・ 配付にあたっては、回覧とせず、各自治会長が各戸に確実に届けるようにした。
- 2 避難訓練の拡充
  - ・ 風水害時に優先的に開設する避難所のうち、避難が想定される地区の学区外である瑞穂台小学校において訓練を実施した。
  - ・ 地区市民センターから瑞穂台小学校には歩いて移動したことにより、避難ルートや避難所の周辺状況の確認が行えた。

## 事業による成果・課題

- 「地区防災計画」の説明会を開催し、地域全体で共通理解が図られた。
- 全世帯に防災のしおり「わが家の防災」を配布したことにより、災害時の対応を各世帯で確認するきっかけが作れた。
- 避難所となる場所を実際に見学し、簡易テントを広げるなどの活動をしたことでイメージがつかめ、災害が起きた際の避難行動、避難所開設行動の両面から確認をすることができた。また、参加者から新たな検討事項についての発言が得られた。

## 今後の取組

- 地区防災計画に基づき、各单位自治会が災害時に行動できるよう、より具体的な体制づくりと訓練を行う。

## 活動の様子

### 地区防災計画説明会の様子



コロナ過で、人数を制限し短時間での説明会となったが、災害時に地区として共通理解が必要な事項について、理解を得ることができました。

### 防災のしおり「わが家の防災」作成のための打合せ会の様子



子どもから高齢者まで、読みやすいように「イラストを多くしよう」や、女性目線で、非常食のローリングストックなどの「ワンポイントアドバイスを掲載しよう」など、様々な意見が出ました。打合せ会を何度か行い、各家庭で災害時にどう行動するかを「防災のしおり」にメモができる参加型とすることで、家庭内での防災の意識を高める内容とすることができました。

避難所（瑞穂台小学校）見学の様子



市民センターから瑞穂台小学校まで（約15分）歩いて行きました。



体育館で、簡易テントを実際に設置してみました。テントの大きさや設置方法を確認しました。避難所を実際に見たことで、災害時に自分たちがどう行動するか確認することができました。

## 河内地区（河内地区連合自治会）

# 防災を通じた地域コミュニティ向上事業

### 事業期間・内容

1 事業期間：令和3年6月26日～令和4年3月22日

2 事業内容

(1) 防災会および関係団体の取組

- 令和3年6月に作成した地区防災計画に続き、地区全体の更なる防災意識向上に向けた防災マニュアル（※）の作成および全戸配布  
※ 災害時に各家庭でできる防災情報等の紹介や、避難所、緊急連絡先、危険箇所等を盛り込んだ防災マップを掲載
- 各自治会の防災マップづくりに向けた研修会を開催（6回。全自治会対象）
- 避難所運営、防災体制の整備、地区内ハザードの確認 等

(2) 自治会の取組

- 各自治会で防災体制を整備、連絡網の作成
- 〃 防災マップを作成
- 〃 防災訓練を実施（毎年）
- 〃 啓蒙活動の実施（毎年）
- 自治会内ハザードの確認
- 災害時要援護者支援者の確認（毎年）
- 消防団員確保に向けた消防団との対話（令和3年度～）

※ 各取組の実施にあたり、地区情報誌、チラシ等で周知を図った。

(3) その他

- 継続的に上記取組等を実施するほか、地区防災マップを活用した自治会研修会を実施し、自治会毎の防災力向上を推進する。

### 実施にあたり工夫した点

- 当地区は都市部（人口集中地区）と農村部が存在し、地形的にも氾濫平野や段丘があり、地域の特性や潜在的なハザードが地域ごとに異なる。  
そのため、地域を一元的ではなく、最小コミュニティである自治会を核とし、防災の取組を通じて隣保共助の強化を図りながら、地域力の維持・向上を目指した。
- 全自治会において自ら地区内のハザード箇所を点検し、その結果をマニュアルに反映する参加型としたことで、地区内の一体感および防災意識の醸成を図った。

### 事業による成果・課題

- 地区内の自治会や住民自らができることから行動するとともに、防災会や関係団体が企画・運営・支援を行うことで、より効果的・効率的に地区内の防災力・地域力の向上につながった。

- 特に、コロナ禍においても、防災は命に関わる問題として話し合いが熱心に行われ、**地域に関する意識とともにコミュニティカの向上が図られた。**
- 近年増加している自治会未加入者に対し、地域防災力向上に向け、防災活動を通じた加入促進を図っているが、微増にとどまった。

### 今後の取組

- 防災や地域に関する議論・活動が熱心に行われている自治会がある一方、まだ始まったばかりの自治会も多くあるなど、地域間格差の是正、底上げを図る。
- 高齢化率の高い自治会では、消防団員や災害時要援護者の避難支援者を確保する。

### 取組の様子

【防災マニュアル（抜粋）】

The collage includes:
 

- 河内地区防災マニュアル** (Kawachi Area Disaster Manual) cover with the slogan "災害から「命」を守るために".
- A **表紙** (Cover) page with a table of contents listing chapters P1 through P8.
- A **防災情報** (Disaster Information) page with a checklist for disaster preparedness, including items like "避難時に命を守るには【風水害】" and "避難時の心構え".
- A **防災マップ** (Disaster Map) showing the Kawachi Area Disaster Map (Kawachi-Kawachi Area).

【研修会の様子】



【研修資料（抜粋）】

The slide is titled "地域による地域のための防災活動の推進" and includes the following content:
 

- 1. 自助>共助>公助** (Self-help > Mutual aid > Public aid)
- 自助** (Self-help): 自分や家族の命と財産を守るために備えること. 主体: 市民. 内容: 飲料水や食糧の家庭内備蓄, 家具の固定, 家の耐震化.
- 共助** (Mutual aid): 地域が丸となり自助的に行う防災活動. 主体: 地域(自主防災会等). 内容: 避難所運営(協力), 避難情報の伝達, 住民の避難誘導(声かけ).
- 公助** (Public aid): 行政が行う防災対策・災害対応. 主体: 行政(市、消防、警察等). 内容: 人命救助, 避難所開設運営, 避難情報の発信, 資料等の備蓄.
- 1.5 おさらい** (Review):
  - 避難とは「命」を「逃」げることです。安全な場所にいる人はあわてて避難所に行く必要はありません。
  - 避難所は避難所だけではありません。親戚や知人の家など、日ごろから避難先を検討しておきましょう。
  - 避難所はいつも開いているわけではありません。
  - 災害時に、すべての避難所が開閉されるわけではありません。
  - 災害時の情報は、自分からとりに行きましょう。
  - 宇都宮市の防災登録メールやテレビ、ラジオなどから、防災情報を入手しましょう。
  - 災害時に備えていかに、日ごろの準備が大切です。
  - 連絡先、非常時対応の準備 ●ハザードマップの確認
  - 風水害時に開設する避難所の確認 ●避難情報の入手手段の確認(メール、テレビ、防災ラジオ)

## 宝木地区（宝木自治会連合会・宝木細谷自治会）

### 防災かまどベンチの設置による「頼りになる自治会」活動の理解促進

#### 事業内容

- 本事業の中核をなす「防災かまどベンチ」を市道 863 号線沿いにある細谷公民館に設置した。
- 10 月 24 日かまどの試用を兼ねて自治会役員等の防災訓練を実施した。
- 家庭に防災を呼びかけるチラシを作成し、地区内全世帯に配布した。
- 11 月 6 日防災士福嶋真理子氏（NHKとちぎ 630 気象予報担当）を講師として、地区内の防災事業に携わる者 100 名を招へいし、防災講話を開催した。
- 12 月 6 日かまどの実習を兼ね、宝木細谷自治会の高齢者等による防災訓練を実施した。

#### 実施にあたり工夫した点

- この事業について、単位自治会ではなく地区の事業として対応したこと。（予算通達が地区自治連あてであることなど考慮）
- 次の事業については宝木地区全自治会を対象に行った。  
防災研修会（コンサーレにて 福嶋講師）  
家庭防災のチラシ地区内全戸配布

#### 事業による成果・課題

- 防災かまどベンチによる炊き出し訓練により、防災担当者からは「災害時には電気も水も来ない。不測の事態に備えてかまどの使用を勉強するいい機会になった」との声を受け、参加者からは「青空の下で、感染の心配もなく、地域の交流にもなった」と喜びの声を受けた。※12月6日下野新聞に様子が掲載された。
- 防災研修会を地区の行事として行い、約100名が参加した。

#### 今後の取組

- 老人会、子ども会等の行事にかまどを使用するの昼食会等を開催する。
  - 地区内の自治会に対し、利用を勧める。
  - かまどを使用するの地域行事をできるだけ工夫し活用する。
- 以上の方法等により「頼りになる自治会」活動の理解促進に努める。

## 「頼りになる自治会」活動の理解促進

### 防災かまど

- 公民館の玄関右側に設置しました。
- 普段はイスとして使用でき、災害時は、座面を外すと「かまど」になります。（写真1，2）
- 外した座面はベンチとして活用できます。（写真3）



### 食事会

- かまどを使用して調理をする様子（写真1）
- 役員の多くの方は、子どもの頃、かまどを使用してご飯炊きなどをした経験があったため、比較的容易に使用することができました。
- 調理内容は、災害時を想定して、ご飯と味噌汁です。
- 黙食を徹底しました。（写真2・3）



### 防災講演会

- 福島さんの講演の様子（写真1）
- 記念に役員の方々と集合写真（写真2）





**共助による  
福祉力の向上**

## 西原地区（西原地区連合自治会）

### にしはら支え隊

#### 事業内容

- 西原地区住民の生活の中で困っていることや悩みなどのニーズ把握を、地域の高齢者や自治会加入者・未加入者を問わず、自治会回覧と地域まちづくり団体、民生委員、福祉協力員、協議体の声掛け訪問により「にしはら大家族アンケート」を実施した。
- アンケートを実施したことにより、自治会未加入者に自治会活動を理解してもらうことができ、新たな自治会加入者の確保へ繋がった。
- 自治会活動や活動支援を理解してもらうため、単位自治会長の協力により、自治会未加入世帯にもポスティングを行い、全世帯にアンケートを配布した。併せて加入促進を促すとともに、支え合い隊が自治会活動であることをアピールすることができた。
- 困っている高齢者と役に立ちたい支援者がアンケートにより把握でき、それらを結び付けるマッチングサポートへと繋がった。
- QRコードから気軽に加入できる仕組みを記載し、若者や技術者など、幅広い支援活動に対応できるようにした。
- 事業を理解し、協力したいと数十名の希望者を集めることができ、研修会などを通じて協議体全体で人材の育成を行った。更なる希望者についても研修会を実施していく。
- 運営にあたっては、「まちづくり活動応援事業」によるボランティアポイントが付与される活動である旨の事業説明の研修会を実施した。
- 広く地域の方々に知ってもらえるよう「のぼり旗」や「活動PR Tシャツ」を作成して、活動が目立つようPRを行った。
- このような活動を通じて自治会加入の促進が図れるように地域広報紙による活動報告を掲載して地域に知ってもらうことで、協力者のモチベーション向上に繋がった。

#### 1 「困りごと」「ボランティア募集」「自治会加入促進」アンケートの実施

- (1) 実施 令和3年12月（昨年度も実施）
- (2) 周知方法 回覧、地域団体、協議体の声掛け、未加入世帯へのポスティング

#### 2 「ボランティア」研修・活動

実施内容 ※ 毎月1回 第4土曜日会議

- ①スマホ教室（4月、6月）
- ②まちづくり応援事業登録及び個人登録説明（5月）
- ③草むしり支援依頼を受けてボランティア募集（6月、7月、8月、11月）
- ④活動PR用「のぼり旗」作成（6月）
- ⑤電球交換支援依頼⇒対応（6月、12月）
- ⑥活動PR用「Tシャツ」と「帽子」作成（8月）

- ⑦アンケート作成（10月，11月，）配布（12月）
- ⑧アンケート回収（1月 単位自治会協力）
- ⑨アンケート集計ボランティア活動（新型コロナまん延防止のため中断）
- ⑩活動時に必要なアイテムの購入（随時）
- ⑪地域広報紙「あいあい」の特集記事掲載（年2回発行）

## 実施にあたり工夫した点

### （準備段階）

- ① 地域の仲間同士で，支え合い・助け合う活動を周知するためのチラシを各戸配布
- ② 地域アンケートから必要とされる生活支援事項の収集
- ③ 活動ボランティアの募集やスマホ教室の勉強会を実施し，理解促進を図る
- ④ 困り事解決の実施に向け，活動計画を協議する
- ⑤ コロナ感染対策を徹底するため，活動前には，支え隊ボランティア全員の検温と健康チェックの実施

### （実施当日）

- ① 「ささえ隊 Line グループ」で支援参加者の希望を募り，実施日を決定
- ② 消毒，検温を行い，マスク着用と，名簿への名前と連絡先を記載徹底
- ③ ごみ袋を配付し，草むしりや電球交換の実施
- ④ 活動アピールのため，のぼり旗の掲示とそろいのTシャツで活動
- ⑤ 無言での活動，アイコンタクトなどで活動を感染対策しながら共有
- ⑥ ゴミ出しは近所の地域応援者と連携して処理を実施
- ⑦ 支援ボランティアの活動状況を写真で記録。依頼者の感想を確認し改善につなげる

## 事業による成果・課題

### （支援を受けた方からの声）

- ・ 一人暮らしで体調が思わしくないことから，庭の草むしりを依頼した。小さな困り事が出来たとき，地域の方が助けてくれると思うと，とても安心できます。支え合いの輪が広がってほしいです。
- ・ 地域と繋がったことで，一人ではできなかったことが，楽しく安心して，素敵な時間を過ごせました。電球交換やゴミ出しなど何でも対応してくれるのはすごい。
- ・ スマホ教室では，とても便利な機能を根気強く丁寧に教えてくださり，それを活用できるようになってうれしかった。

### （支援者からの声）

- ・ 支え合い隊グループLINEで依頼内容を発信し，瞬時に対応ができる繋がりが良かった。
- ・ 地域住民同士の協力の和が広がっていくのが楽しかった。

## 今後の取組

- さらに今後も小さな困り事を助け合うために、自治会活動である「支え合い隊」を周知して、西原地域全体が気軽に相談や参加が出来る「にしはら大家族」を目指す。

## 記録



依頼があれば  
すぐ！  
ボランティアが  
集まります！



自治会加入を  
促進するため、  
のぼり旗で  
地域活動を  
アピール  
しました！

※今回のアンケートは、「無記名」となっております。ボランティアのご協力を頂ける方は、下記枠にご記入、もしくは、QRコードで、お返事追加をお願いいたします。

【にしはら支え合いLINE】

前回のアンケート（令和1年8月）の指標を基に、にしはら支え合いでは、地域支え合いを目的とした「草むしり」活動を実施してまいりました。今回のアンケートを基に、さらに、地域支え合い活動の輪を広げていくための活動を検討したく思っております。にしはら支え合いの趣旨に賛同して、ボランティアまして下さる方は、ご所属先のご記入をお願いいたします。にしはら支え合いの活動をする際、ご案内をさせていただきます。

お名前：  
ご住所：  
連絡先（携帯/メールアドレスでも可）

（自治会名：）

アンケートは  
自治会未加入者へも配布。

依頼者と支援者の  
マッチングサポートも備える。

気軽にボランティアに参加できる  
仕組みです。



## まとめ

### 集合住宅への加入促進

- 【取組】 自治会未加入者の目線に立った加入促進チラシの作成・配布  
地区内の全自治会一体となった加入促進活動の実施
- 【成果】 若年世帯が自治会活動を理解した上での自治会加入実績
- 【課題】 自治会加入促進は、「自治会に加入して当たり前」という考えから、「加入してもらうためにはどうすべきか」を考えた取組を検討する必要がある。
- 【対応】 自治会未加入者が望む内容（加入メリット）などの検討した配布物の作成

### ICTによる情報発信の強化

- 【取組】 ホームページ開設による情報発信の基盤整備  
スマートフォンアプリの活用による地域活動のデジタル化
- 【成果】 会議の出欠確認や資料の共有をスマートフォンで行うことによる役員の負担軽減
- 【課題】 若者世代の取り込みや役員の負担軽減に有効であることから、高齢者等のスマートフォンの苦手意識の払拭や、デジタル化する部分としない部分のすみ分けが必要
- 【対応】 地域のデジタル化に対する住民への理解促進や、運営に携わる人材の育成

### 地域防災力の向上

- 【取組】 地区防災計画の作成・配布
- 【成果】 防災会をはじめ関係団体が協力して取り組むことによる地区内の防災意識の向上
- 【課題】 防災は自治会未加入者にも重要なテーマであることから、自治会未加入者への働きかけが必要
- 【対応】 未加入者を含めた防災活動の検討・実施

### 共助による福祉力の向上

- 【取組】 高齢者等の悩みごと等のアンケートを取り、その解決を図る活動の実施
- 【成果】 草むしりからスマホ教室まで幅広く共助の取組がなされた。
- 【課題】 高齢者等の退会防止に効果的であることから、高齢化が進む地域においては、活動の担い手確保が必要
- 【対応】 「まちづくり活動応援事業」などを活用した活動の担い手の確保

#### 【おわりに】

9地区の皆さまにおかれましては、本補助金を活用し、自治会の魅力向上に取り組んでいただき、ありがとうございました。この取組を「きっかけ」とし、今後も引き続き、自治会活動の活性化につなげていただければ幸いです。

また、本事例を参考にし、市内の多くの自治会において、魅力ある自治会づくりの取組により、活動活性化の輪を広げていただければ幸いです。



UTSUNOMIYA



UTSUNOMIYA



UTSUNOMIYA

【問い合わせ先】

宇都宮市 市民まちづくり部 みんなでまちづくり課

電話 028-632-2287

宇都宮市自治会連合会事務局

電話 028-632-2289